会 議 記 録

会議名称	第7回杉並区ジェンダー平等に関する審議会	
日時	令和7年7月29日(火)午後6時～9時	
場所	杉並区役所第4会議室(中棟6階)	
出席者	委員名	村松会長、高見副会長、赤池委員、藤岡委員、岩橋委員、櫻井委員、三戸委員、岩田委員、山田委員、鈴木委員
	事務局	区民生活部長、区民生活部男女共同参画担当課長、保健福祉部計画調整担当課長、子ども家庭部管理課長、保健福祉部管理課計画調整担当係長、保健福祉部管理課計画調整担当、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係
欠席者	0名	
傍聴者数	5名	
配付資料等	資料1 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 委員名簿(裏面:席次表) 資料2 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 事務局名簿 資料3 杉並区ジェンダー平等に関する審議会答申案	
会議次第	1 開会 2 連絡事項 3 審議会運営の確認 4 議題 (1) 答申案について (2) 答申決定に向けた進め方について 4 その他 第8回開催候補日 令和7年8月29日(金)午後6時～	
村松会長	<p>では、始めたいと思います。第7回杉並区ジェンダー平等に関する審議会を開会いたします。本当に大詰めになってまいりました。今日ともう1回ということになりましたので、答申にまとめる作業ということで皆さんに原案をお送りしてあると思いますけれども、これをブラッシュアップしてよりよい答申になるように、皆さんのご意見を活発に頂いて固めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、2「連絡事項」とあります。前回の審議会でご報告がありましたとおり、横山委員が6月末に人権擁護委員を退任されたということで、本日から後任の鈴木委員に審議会委員に加わっていただきました。鈴木さん、ご挨拶いただけますでしょうか。</p>	
鈴木委員	<p>皆さん、こんばんは。はじめまして、鈴木知徳と申します。今ご紹介いただきましたように、横山委員の後任として人権擁護委員に7月から委任されたものです。ふだんは杉並区立済美教育センターに務めておりまして、私自身は杉並区立小学校に20数年勤めた経験がありますので、少しお役に立てればと思いつつ、とても審議が細かく丁寧に進められているので、今日は皆様のスタート地点に早く追いつけるように、審議に参加させていただきます。</p> <p>どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>	
村松会長	<p>本当に、最後の詰めの段階になってお越しいただきました。横山さんには人権についていろいろとご意見を頂いておりまして、それも反映させた答申案になっているかと思っておりますけれども、改めて今の段階で新しい目で見えていただいて、お気づきの点があったらご指摘いただければと思います。残りの継続の委員については委員名簿が配られているかと思っておりますので紹介は省略させていただきますが、よろしくお願いいたします。</p> <p>では、運営確認に入りたいと思います。事務局からお願いします。</p>	
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>それでは、事務局から運営確認をさせていただきます。次第3「審議会運営の確認」です。まず、定足数についてでございます。本日はオンラインの方も含めて委員全員にご出席いただいておりますので、審議会条例第5条第2項により本日の審議会が成立していることをご報告いたします。</p> <p>続きまして、資料の確認をさせていただきます。1点目、通番はありませんが「本</p>	

	<p>日の次第」。それから資料1「杉並区ジェンダー平等に関する審議会 委員名簿」、裏面が席次表となっております。資料2、「杉並区ジェンダー平等に関する審議会事務局名簿」。それから、最後になります。資料3「杉並区ジェンダー平等に関する審議会答申案」、ホチキス留めしているものでございます。過不足等はございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それから、本日も事務局として保健福祉部から3名、子ども家庭部から1名が参加しております。引き続き、本審議会は公開でございます。本日も記録のため録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>審議会運営の確認については、以上でございます。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここで傍聴の方からの撮影に関し、皆さんにお諮りいたします。本日2名の方からの記録のために撮影したいという申請が出ております。撮影に当たりましては傍聴席より会場全体を撮影いただき、個人識別ができないように撮影することをお願いすることとし、この申請についての許可は本日出席している委員の過半数の挙手をもって決定することといたします。可否同数の場合は、会長が決するところになります。では本日の審議会での撮影を許可してよろしいかお諮りします。いかがでしょうか。</p> <p>全員、ご賛同で。オンラインの方も大丈夫ですね。ありがとうございます。ではどうぞ、写真撮影なさってください。</p> <p>では次第4に入りますけれども、その前に事務局に確認をお願いしたいと思います。今月ジェンダー平等とアンコンシャス・バイアスをテーマにした区長と区民の方との意見交換があったということですので、その内容をご紹介しますか。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>では、事務局からご説明させていただきます。</p> <p>会長が今おっしゃいました区民と区長との意見交換でございますが、杉並区では区の課題について区長と区民の方が直接対話する聴くオフ・ミーティングというイベントを実施してございます。今月7月12日に行われた聴くオフ・ミーティングでは、ジェンダー平等と無意識の思い込み、アンコンシャス・バイアスをテーマにして開催いたしました。会の冒頭に無意識の思い込みについてご説明する際、本審議会についてもご紹介させていただいたところでございます。当日は午前と午後合わせて37名の方にご参加いただきましたが、そのテーマであるジェンダー平等やアンコンシャス・バイアスについて多くのご意見をお伺いすることができました。</p> <p>少し紹介ということで、「自分が育児をするようになって、家庭や学校や職場において性別役割の押しつけやジェンダーの問題があることに気づいた」というご趣旨のご意見は、性別、年代にかかわらず多くの方からお寄せいただきました。ほかにも「職場や地域活動において女性がお茶汲みなどの仕事を担いがちであることを、女性である自分自身が無意識に自分の役割と思い込んでいた」という実体験。それから子育て中の方から、小学生の子どもであっても服装などにジェンダーの思い込みが根強くあることを示すエピソードなどをお寄せいただきました。本審議会でも議論いただいている課題と同様の問題意識を、区民の方がお持ちであることが分かったところです。また最後の全体トークの中で、「一人ひとりが思い込みを取り払い相手の考えをしっかりと聞いた上で行動することで、ジェンダー平等社会が実現できる」というご発言を複数の方からお寄せいただいたところです。</p> <p>このイベントの様子を収めた映像や当日の資料、当日参加された方のご意見につきましては、区のホームページに順次掲載してまいります。担当所管に聞くとところで、来月上旬に出来上がったものから一部御覧いただけるようになるということで、区のホームページ内の検索ページで「区政を話し合う会」、「聴くオフ・ミーティング」と入力いただきますと当日の詳しい様子が掲載されておりますので、ぜひ委員の皆様にも御覧いただければと思います。</p> <p>資料なしで失礼しました。以上で7月12日の聴くオフ・ミーティングの内容についてご紹介させていただきました。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私たちが直接区民の方から意見を聞くチャンスはなかったのですが、このタイミングで聴くオフ・ミーティングをやってくさっているの、やはりジェ</p>

	<p>ンダーに敏感なご意見がいろいろ出たみたいですし、これからの方向性についてもこちらとそごがある形ではないのではないかなと思いますので、区民の意見をお伺いしていただけてよかったと思います。そこに参加された方たちもいろいろ期待してくださっていると思いますので、それに応えられる答申を作り上げていきたいと思ひます。</p> <p>では、早速その答申案についての議題に入ります。事前に資料が送られていると思ひます。皆さんに御覧いただいていると思ひますが、今日配られている資料は第6回までのご意見を踏まえ、副会長と私で相談しつつ作成したものでございます。全体の構成や章立てについては既に皆さんから合意していただいているものと思ひますので、本日は個別の課題や方策の言い回し、表現、ニュアンスなどについて、審議会の思いが確実に反映された答申となるようにブラッシュアップを行って行く。今日はそのための会議だと考えております。次回の審議会が最終回となりますので、次回で本当に最終的に答申を決定できるように今日ほぼ固めていきたいと思ひます。もちろん今日ご意見を頂いて、それを参考に反映させて、最終回の答申案にもう1回お諮りすることになります。</p> <p>では、事務局から資料の説明や補足等はございますでしょうか。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	特にございません。
村松会長	<p>では、答申案についてご意見を伺っていきます。それぞれの方の関心の強いところは、皆さん特に丁寧に見てくださっているのではないかなと思ひます。分量が多いです。章ごとというか、その章の課題などを少し細かく区切って、1ページ目から順にご意見を伺って、最後にまた全体を振り返って行く。そういう形にしたいと思ひます。時間を見ながらある程度ペースアップして進めていきたいと思ひますけれども、もし言い忘れたこととか言い足りなかったことなどがありましたら、最後の全体の振り返りの中で改めてご発言いただく機会を作りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>ではまず1ページ、2ページ目に「答申にあたって」というのを私が書かせていただきました。ここについて何かご意見があったり、お気づきの点があったらご指摘ください。</p>
赤池委員	<p>村松先生の30年来、いや、それ以上の思いが込められた最初のメッセージで、本当によくここまで一緒に作ってこられたことを思い、胸を熱くしました。</p> <p>それで1点だけなのですが、高校の家庭科の男女共修化についてなのですが、この後にも書かれてくるのですが、学習指導要領、多分中学の男女別型履修もこの当時に指摘されたのではないかなと思われ、もし必要であれば入れたほうがいいのかどうかご検討いただければと思ひました。</p>
村松会長	85年の間に間に合わせた学習指導要領の改訂が高校だったのですよね。たしか、そうですね。私も最初に調べて書いたつもりなのですが、そごがあったら。もう1回、確認します。
区民生活部男女共同参画担当課長	こちらの事実関係は確認させていただきますが、私も先生から原稿を頂いて資料を確認した際には、この男女雇用機会均等法の批准のタイミングで男女共修化したのは高等学校という資料があったと思ひましたが、念のため確認させていただきます。
村松会長	<p>指導要領の改訂なのだからかなり先のことを考えてやるので、多分中学から順に押し上がってきて、まだ高校ができていなかったから批准できなかったのではないかなと思ひます。その辺を確認します。これで大丈夫かどうかを確認した上で。私も、確認しつつ書いたつもりだったので、ご指摘ありがとうございます。要確認です。</p> <p>ほかには、何かありますでしょうか。お願ひいたします。</p>
岩田委員	本当にしょうもない話で、ここは知識不足なのですが、最初の段落の一番後ろに「ジェンダーギャップ指数は次第に順位を落としており」とあって、そんなに細かいところを押さえていないのですが、日本は昔からずっと最底辺のグループでは

	なかったでしょうか。
村松会長	最初の頃は、参加国数がそんなにたくさんではなかったのですけれども。
岩田委員	でも、下から数えたほうが早い。
村松会長	みんな上に入ってくるのです。ジェンダー指数は、指数が0.6幾つと、初めからずっと日本はそうなのですけれども、その数値は日本のジェンダー平等の実態が悪化しているわけではないのです。前進していないことが表れていると。そこも書きたかったのですが、ここはグラフなどで見るとこのように悪化していますけど。
岩田委員	そしたら、対象国数が増えていたら順位が下がるのは当たり前ではないですか。下から何パーセント。
村松会長	上から1番だったら、何か国になっても1番のところもあります。
岩田委員	下のほうだったら、30か国だったら29番、28番で。120か国だから今110番台になっているというくらいのイメージなのですけど、そうではないのですか。
村松会長	参加国数が増えて。
岩田委員	相対的に。
村松会長	だから悪いところが入ってくればあまり変わらないはずだけど、日本よりいいところもたくさん入ってくるのでどんどん相対的に。
岩田委員	承知しました。
村松会長	だから数値が変わっていないのに、順位は下がっている。そういうことだったので。
岩田委員	順位が下がっているというのは、相対的な順位ですか。
村松会長	はい。
岩田委員	下から何分の1というのが下がっているということですか。
村松会長	はい。
岩田委員	そうなのですね。そこが不勉強で、すみません。最初からずっと底辺なのかと思っていました。 それから、またこれも私の勉強不足なのですが、その下の1行あけて3段落目に「その後、区は」という段落がございます。ここで「最初の男女共同参画行動計画」とありますが、この最初というのはどの中で最初なのですか。全国で、自治体で。
区民生活部男女共同参画担当課長	それはこちらで答えさせていただきます。杉並区は数字をつけていないのですが、杉並区として最初の第1次という意味合いです。
岩田委員	区の最初の。よそと比べたわけではないのですね。
区民生活部男女共同参画担当課長	そうです、区として。今は数字をつければ第8次くらいですか。なので、第1次がそのときであったと。
岩田委員	分かりました。 すみません。あと、細かい話で恐縮なのですが、下から4行目の「交差性をもつ」という文言ですが、これが平仮名だったり漢字だったり。
村松会長	「持つ」が。
岩田委員	それが気になるのと、ついでに言いますが、その次の節にありますけれども、「取組」を漢字で書くのが公用文の用字例としては正しいといわれているのです。体言は、送り仮名なしで。「取り組み」と平仮名で書くのは、公文では駄目です。でも「取り組んでいく」とか用言だったらちゃんと「り」とか「ん」とかを入れないといけないというのが一般的な使い方なので、そこは統一していただければと思います。公文ではないので私はこだわりませんが、統一したほうがいいのか、統一できていないと格好悪いので。
村松会長	全体に送り仮名なしの「取組」というのがほとんどこの答申を通じてだと思えますけど、ここに平仮名がありましたか。
岩田委員	平仮名で「取り組み」。例えば3ページの3行目、「国際的な取り組み」というのが平仮名になっています。

村松会長	そうですね、「取り組み」が、分かりました。その辺をもう1回、細かいところの整文は。
岩田委員	Wordなので、検索とか置換えすれば一発で。
村松会長	区にもご協力いただいて。
区民生活部男女共同参画担当課長	そちらの確認は事務局でさせていただきます。ご指摘ありがとうございます。
村松会長	ご指摘ありがとうございます。 ほかには、いかがでしょう。今の「答申にあたって」。またあったら、戻ってお願いしたいと思います。 では、次の大きな1章というのですか。「ジェンダー平等を取り巻く現状～世界・国・都～」というところで、今も表記の話がありましたけど、ほかにはいかがでしょうか。国際的な動向、国の動向、都の動向。そして、ジェンダー視点の主流化の流れ。3、4、5ページの中で何かお気づきのことがありましたら。
赤池委員	国の動向の中で「改正」と「改定」が出てくるのですが、最初は「学習指導要領改正」。これは、「改訂」のほうがいいのではないかと。これは鈴木先生、いかがでしょうか。 あと、『男女共同参画基本計画』が策定されました。改訂を」と、ここも「改定」となっていますが、これもどうなのでしょう。「改定」の「定」が、「訂正」の「訂」かどうか。
区民生活部男女共同参画担当課長	下から3行目ですか。事務局で確認させてください。
赤池委員	お願いします。
区民生活部男女共同参画担当課長	今の「改定」の部分の2つ目の基本計画に関わる部分は、3ページの下から3行目の「改定を重ねて」の部分でしょうか。
赤池委員	そうです。
区民生活部男女共同参画担当課長	多分基本計画は「改正」ではなく「改定」というイメージでいたのですが、そこは資料と確認させて。ご指摘は、「てい」はごんべんの「訂」ではないかということですか。
赤池委員	はい。
区民生活部男女共同参画担当課長	分かりました。確認いたします。
岩田委員	法律だと「改正」になる。「改めて正しくする」になるのですが、計画だと大体が「改定」ですよ。「訂」は「訂正」。間違っているのを直す場合はごんべんの「訂」にしますが、新たに定めるとか定め直す場合は「定」です。
区民生活部男女共同参画担当課長	今ある3ページの「改めて定める」のほうが、用語的には使われるものであると。
岩田委員	そうです。
村松会長	指導要領は、毎回新しく作っていくからと。そういう感じですよ。どちらですか、先生。
鈴木委員	指導要領はごんべんです。
区民生活部男女共同参画担当課長	私もいろいろな資料を読む中で、意外に資料ごとに違ったりすることもあるものですから、その場合にはどこかで統一するという。これは事務局レベルで用語確認させていただきまして、意味づけした上でこれと決めて統一させていただく形で整理させていただきます。 ありがとうございます。
岩田委員	すみません。私、調べる時間がなかったのです。申し訳ない。3ページの1番「国際的な動向」の中の9行目、「これらの枠組みは、平成27年の国連サミットで採択されたSDGs」。ここの「国連サミット」は、正式な名称なのですか。サミットは

	いっぱいあるので、「国連何とかサミット」とかが普通ついていると思うので、そこは事務局で補っていただければと思います。
区民生活部男女共同参画担当課長	承知いたしました。私の認識も実は国連サミットだったのですけれども。
岩田委員	国連はしょっちゅうサミットをやっているのです。5年に1回くらいサミットをやっているのです。私も行ったことがあります。
区民生活部男女共同参画担当課長	SDGsに絡む一連の表現があるかと思しますので、そちらを確認させていただいて、修正が必要であれば直させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。
岩田委員	よろしく願いいたします。お任せします。
村松会長	では、次に行きます。「杉並区のジェンダー平等に関する動向」ということで、6ページ、7ページについてお願いいたします。
高見副会長	何もなければということで。まだ、いろいろ見落とし、言葉の整っていないところ、見直していないものもあります。例えば2番の『ジェンダー平等』の視点」と仮に置いていますが、本当にこれで内容を表しているかどうかとかまだ詰まっていないところ。中身はジェンダー平等に関する区の現状と課題という内容かなと思うのだけど、こういうものも皆さん方でこういう言葉を置いたほうがいいのかというのがある。ご意見を頂いたら会長とまた少しもんで、また次回に提出したいと思います。そういうのも含めてもしご意見があればと思います。
村松会長	これから山ほど課題は上がってくるので、ここではあえて課題としないで『ジェンダー平等』の視点」という形になっているかと思えます。この見出しについて、何かご意見はありますか。 では取りあえずこのままで行くという形にしておいて、何かありましたらお願いいたします。8ページ、「杉並区のジェンダー平等社会の実現に向けて」。まず1「目指すべき未来像」、この辺りから会議で議論したところですので、そのときの思いが反映しているかどうかというところを、ご意見をお願いしたいと思います。これから書いていく順序が、諮問では課題から始まって課題、未来像、方策だったけれども、やはり未来像から始めて課題、方策について書きましたということを最初に述べております。皆さんにご議論いただいたジェンダー平等社会とはこういうものということを書いて、これを受けて「このジェンダー平等社会が」と。この辺の言い回しは、大丈夫でしょうか。
赤池委員	8ページの真ん中の下からの文章なのですが、やや主語と述語がかみ合わないというか、流れがどうかと思うところがあって、例えば「これによって描いている未来の杉並区は、そこで生まれ育ち」という一連の文章なのですけれども、最後に「個人として尊重されなければなりません」。これは人が尊重されなければなりませんということなのですが、その前に「杉並区は」とあるので、そこを少しコンパクトにしてもいいのかな。例えば「それは」とか。これは「目指すべき未来像」を受けていると思うのですが、それは最後の「働くすべての人が」、「尊重されなければなりません」につながる通りのいい文章にさせていただいたほうがいいのかと思いました。
村松会長	ここの3行の言い回しを変えたほうがいいのかということですか。
赤松委員	その始まりを。
高見副会長	多分主語、述語がかみ合っていないというお話ですよ。では、それは確かにおっしゃるとおりだと思うので、文言については全般的に整えるようにしたいと思います。
区民生活部男女共同参画担当課長	赤池委員。こちらの記録のために確認をさせていただきたいのですが、8ページの下の方の何行目から何行目の部分かは再度確認させていただいてよろしいでしょうか。
赤池委員	四角で真ん中に囲んでありますところの下の方の段落の上から2行目から。
区民生活部男女共同参画担当課長	「これによって」から。

高見副会長	「尊重されなければなりません。」になっているから、3行。
区民生活部男女共同参画担当課長	この3行ということで。ありがとうございました。失礼いたしました。
岩田委員	書記代わりで、赤池委員がおっしゃったやつは「そして、このジェンダー平等社会が、『杉並区の目指すべき未来像』です。それは、杉並で生まれ育ち」。あとは、一緒にいいと思うのです。赤池委員、これでいいですよ。
赤池委員	はい。
岩田委員	事務局がハードなので、もうワーディングまで決めてしましましょう。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございます。
村松会長	「未来像です」。
岩田委員	『未来像』です。それは、杉並で生まれ育ち」。あとは一緒。
村松会長	「そこで」ではなくて、「それは、杉並区で生まれ育ち」。
岩田委員	「杉並区」か「杉並」かはお任せします。区はあくまで行政の仕切りなので、地域をいうのだったら杉並のほうが私は自然でいいと思います。区というのはあくまで役所が決めているものですので、行政の縄張りを決めているだけです。やはり地域を重視するのだったら、「杉並」だと思います。
村松会長	表題自体が「杉並区の」と書いてあるのですが、この辺はどうなのですか。
岩田委員	それは役所が、杉並区が主体となってこの審議会を設けて政策に取り組むと。そういう意味では杉並区なのです。責任をはっきりしなければいけない。でも地域とか社会を見るのだったら、我がまち杉並だと思うのです。区ではない。そこは、権力が入っているのが区ですから。区とか市とか都なんて、別に大阪維新ではないけど潰しても構わない。人が行政の都合で勝手に作っている。でも杉並はそこに何があってもあるわけですから、そういう視点で捉えるのがいいのかなと思っております。
村松会長	後の方策でも、「杉並はこうであってほしい」という書き方になっていますよね。
岩田委員	そうですね。むしろそちらで区ではなくて杉並をこうしたいのだというのが文章の中で書かれていて、そこはいいかと率直に思いました。喜んで読んでいました。夜中に「おお」とかいて、体を打ち震わせながら読んでいました。
村松会長	諮問されたのが杉並区における云々と書いてあったので、「杉並区」とつけてしまっているところがあるのですが、上に書いてある表題だとか、2つ目の段落の「未来の杉並区は」というところの関係で、そこはそのまま残しておいて、下は「杉並は」にしても大丈夫ですか。
岩田委員	多分そういうことだと思います。
村松会長	それで、よろしいですか。
岩田委員	役所としての責任、権限を明らかにするのだったら区です。明らかにして、主語をぼかささないで、区が責任を持つのです。でも目指すべき社会は、杉並の人とまち、歴史を我々は対象にしているのだと思います。
村松会長	そうすると、そのもう少し前から、四角の枠の上の「はじめに」というところ。「未来の杉並区は」と書いてあるけど、ここはつなげるためにはどうですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	区の計画の中にも「すぎなみ」という形で平仮名で表したりすることもありますので、文脈に応じてということで。
区民生活部長	岩田委員がご指摘のところは、「杉並区」でも「杉並」でもいいかなと。「杉並」のがじっくりくるかなという感じはしますが、ここは文脈に応じて行政単位である杉並区と、それから地域、その場所である杉並を使い分けるということでいいかなと思います。ここは先生方のご判断ですが、「杉並」でも問題はないかなと思うのですが。
岩田委員	よろしくお願ひします。役所ではそういうテクニカルなこととか行政上のチェックをしっかりといただいて、あとは会長と副会長に委ねることで、私自身は全然こだわりがないのでよろしくお願ひします。

村松会長	ではその辺の調整は事務局でもう1回目を通していただいて。
区民生活部男女共同参画担当課長	またこちらでも頂いたもの、先ほどの文言も含めた言葉のチェックとか、統一感みたいなものは確認させていただきます。
村松会長	よろしく申し上げます。今日頂いたご意見に基づくそういう調整も、区でお願いしたいと思います。ありがとうございます。 では「目指すべき未来像」、よろしいでしょうか。
三戸委員	細かい点で恐縮なのですが、四角の枠の次のパラグラフの3行目のところ。「学び、暮らし、働くすべての人が、男女や性的指向・性自認にかかわらず」とあるのですが、四角のほうで「性別や性的指向、性自認にかかわらず」としていただいているので、「男女」を「性別」と変えていただくのがいいかなと思いました。
村松会長	「男女」を「性別」に。
三戸委員	はい。
岩田委員	男女ではない人もいますから。おっしゃるとおりです。気づきませんでした。
村松会長	ありがとうございました。
高見副会長	それでは、皆さんご意見はよいですか。今の意見は。
村松会長	今のところは、それでよろしいですね。
赤池委員	今の議論の次の段落の「それが活気ある社会を作り」という一文なのですが、前文とのつながりがややどうなのかなと。飛躍的な感じもあって。
村松会長	浮いている。
赤池委員	そうです。あと、社会と地域という使い分けも割と混在しているというかなので、もしかしたらこの一文はなくてもいいのかなと思ったり、あるいは冒頭の「社会」を「地域社会」に言い換えたほうがいいのか。どうでしょう。 もう1個、続いてもいいですか。その次の段落です。「多くの課題の解決に向けて必要な情報が得られ」。情報発信について割と多く述べられているのですが、昨今フィルターバブルやエコーチェンバーが常態化していて、SNSによる世論誘導が広がっている中で、情報発信だけでは不十分であり、むしろ市民のリテラシーを鍛える必要があるのではということもあり、最初に村松先生が述べてくださったように、これまでも杉並では社会教育の流れがあったということで、「情報、学習機会」あるいは「学び合いの機会」という文言をここに入れていただけないかというのが1点です。
村松会長	追加するということですか。
赤池委員	はい、追加するということです。 あと、「必要」という言葉は割とたくさんここに使われているので。「必要なケアが受けられることが」、この次は「大切に」でいいのかなと思います。 最後の一文も流れがややスムーズになるように、最初の「こうしたまちづくりをするには」というのを取って、「行政と区民がそれぞれの立場から協働しあうことで、まちを作り維持していくことが肝要です」というのはいかがでしょうか。
村松会長	「まちづくり」を取って、「行政と区民がそれぞれの立場から協働しあうことで」。このところの「まち」は、平仮名でいいですか。「街」？ 「まち」は「まち」でいいですか。
赤池委員	まちは結構平仮名で書いてありますよね。
村松会長	平仮名の「まち」でいいですか。「つくりあげ維持していくことが肝要です」。区で記録していただけましたか。 それから、その上にある2行のところが必要ないか。もしくは「活気ある地域社会を作り」に直していきたいと思いますが、どうでしょうか。
岩田委員	ないほうが、かえって文章はきれいですね。もう取ってしまったほうがよい感じで、赤池委員に同意です。
村松会長	ほかの皆さん、ご意見はどうでしょう。カットしていいですか。要らないですか。分かりました。では「活気ある社会を作り」、その2行は削除してください。四角の下のパラグラフが「地域であり社会です」、「そうした社会の実現」。ここも「社会」だか「地域」だかが、ごっちゃかな。その前の行でも「地域であり社会です」

	みたいな、そういう書き方になっていますが。ではこの辺をもう1回整理して。
区民生活部男女共同参画担当課長	一応タイトルは「社会の実現」になっているので、こちらを受けているという見方もあると思います。タイトルが「ジェンダー平等社会の実現に向けて」なので、そうした社会の実現に向けているという見方もあると思います。
村松会長	「社会」のほうが。
区民生活部男女共同参画担当課長	今の赤池委員のご指摘を含めて、一旦文脈との整合性みたいなのも事務局でも確認させていただきます。
村松会長	では、その辺で整理していただくことにして。ありがとうございます。
藤岡委員	「責任を分かち合う社会」というのが、以前の審議会とかでも「責任とは何だったか」みたいなところですごく議論が白熱したと記憶しているのですが、この四角の部分が描いている未来の杉並区で、それに付随して下の文章があると理解しています。というところからすると、この責任を分かち合うという部分はその下のところからは少し読み取れない気がしていて、この要素が何かしらあったほうがいいのかと思うのですが、いかがでしょうか。案が思い浮かばず、すみません。
村松会長	それぞれの立場から協働し合うというところのほうがいいかなというところなのですが、もう少し何か。
藤岡委員	もちろんそれも責任の1つだと思うのですが、そのとき出てきた話だと家庭内での責任を分かち合うとか、そういった話も結構出てきていて、割と広い概念として皆さんは捉えられていたのかなという気がするのですが、すごく局所的な責任になってしまう。ここの議論の過程を知らない人が見たらそうになってしまうのが、もったいないかなという気がしています。
区民生活部男女共同参画担当課長	すみません、事務局です。議事録の確認をした際、一応そういった議論もございましたけれども、「利益の享受に対して責任もある」というご説明を会長のほうでもたしかされていたと思うので、その辺を含めて責任の表現についてももう少し補足された方がいいのではないかとことです。
村松会長	言い回しで、こうしたらいいみたいなのがあったら。
藤岡委員	今アイデアがなくて、どうするのがいいかなと思っていました。
村松会長	「主体的な参加」みたいな言葉を入れるか、ですね。
藤岡委員	そうですね。結局この言葉はどこに行ってしまったのか、みたいな感じになってしまうか。もしくはそれが全然違う形で切り取られてしまう可能性もあるかなというのが怖い感じ。
岩田委員	しゃべってばかりで、すみません。 この「責任」、ぎらつきますよね。すみません。夜中に一生懸命読んだつもりだったのですが、私は見逃してしまっていました。これはやはりこれまでの審議を踏まえると、ここで「責任」が出るのはぎらつき過ぎるかなと思います。「責任」というとやはり義務なのでぎらつくのだと思うのです。主体的に参画するというのだと、例えば「責任」に代えて「役割」にして、「役割を担い合える社会」とか。義務ではないのだと。主体的に参画して、自分のやりたいこと、やるべきと考えることをお互いにやっていきましょうと。
区民生活部男女共同参画担当課長	役割に関しては固定的性別役割の考え方ともありますので、「役割」という言葉の使い方は少しご議論を頂く必要もあるのかなと。
岩田委員	確かに、そうですね。
区民生活部男女共同参画担当課長	様々な捉え方があります。
岩田委員	どうしよう。
区民生活部男女共同参画担当課長	非常に難しい表現だといわれているところもありますし。
岩田委員	日本語が難しいです。すみません。

区民生活部男女共同参画担当課長	この「責任」に関してはよくジェンダー平等などで使われている、利益の享受に対しては責任も発生するというので、会長が繰り返しご説明されていたと認識しておりますので、一旦大きな枠組みとしてはご同意いただいた形になりますので、議論の差し戻しになる部分に関しましては整えていきたい感じもございます。
岩田委員	やはりそういう経過で、ジェンダーに関する文章で「責任」が使われているというのは教えていただいて学んだことなのですけど、ここで「責任」が出てくるとぎらつくな。 すみません。あと「分かち合う」の「合う」は、平仮名にするべきです。
村松会長	「分かちあう」。 お願いできますか。
藤岡委員	すみません。私が議論をちゃぶ台返してしまった感じになってしまって、申し訳ないです。 ここの四角の部分は皆さん合意されたと思うので、それはそれでいいのですが、では責任を分かち合う社会とは具体的に何かみたいな例示があればいいのかなと思いました。例えば「責任を分かち合う社会だったらこういったこと」みたいな例示があれば、「ここはこことつながっているのだ」というのがこの文章を読んだ人でも分かると思うので、私がおの辺りは不勉強なので、ここは男女共同参画でいわれる「責任を分かち合う」というところのよくある例示みたいなものが2、3あればイメージできるのかなと思ったのですが、いかがですか。
村松会長	最初に提案したときにいろいろ意見を述べた気もしますが、もう1回議事録をひっくり返して、その辺の文言で。今すぐ出てこないの、これは今日ほかの皆さんからも具体的な意見を頂いて、それから区の中でも整合性みたいなことでいろいろと調整していただいて、次の案を作るまでに、皆さんからは途中で意見を頂くのでしたか。次回を待たないで意見を頂いていいのかな。それとも、今日のうちに出さないといけないのですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	もちろん今日のご議論の流れの中で、こちらに今もう幾つも修正が入っておりますので、事務局で確認したり、ご意見を反映させた形で一旦お見せいたします。「ここにこれを足したほうがいい」みたいなものがあると思いますので、事務局の立てつけとしましては、今日ご意見頂いたものをこちらに反映させます。そして第8回が最終回になりますので、会長から一旦直しのご指示を頂いたものを、また今回のような形で事前の皆様にお送りし、その段階ではほぼ確定版なので、もし細かい文言の修正があれば頂きますけれども、第8回の段階ではほぼこれでという形のものをお見せできるように、7回から8回の間でやり取りはさせていただく。 ただ、あまり何度もというのがありますので、今日のもの一旦入れた形のものをもう1回皆さんにお見せして、その微修正が第8回に行くのかな、くらいのイメージです。
村松会長	では次回の前に皆さんに送る案までには、修正案をこちらで考えて入れるので、皆さんにもう1回見ていただいて、最終回でご意見を頂く形にさせていただきます。ありがとうございます。 では一応先に進みまして、9ページからの「今後の課題」。ここからはどうしましょうか。まず、9ページの「今後の課題」について。これは、手続の話が書いてありますけど。
赤池委員	9ページの3段落目に「その中で、全てに通ずる2つの大きな課題が見いだされました。1つは『夫は仕事、妻は家庭』のような」という事例が挙がっていて、これはよくいわれていることではあると思うのですが、杉並の意識調査で経年で見ると結構変動があったようにも思います。理想と現実の乖離があるのは実際として数値が示されている印象を受けていたので、もしかしたらそのような文言を追加してもらったほうがいいのかな。いま一度、確認いただければと思いました。
村松会長	「その中で」という文章の中に、何と。
赤池委員	『夫は仕事、妻は家庭』のような、無意識の思い込みや偏見から生じる」云々とあるのですが、課題の1つとして挙げられている。
村松会長	山田さんが手を挙げてくださっているようで、お願いできますでしょうか。
山田委員	戻っていいですか。すみません。なかなか指していただけなかったの、よろしいですか。聞こえますか。

村松会長	固定的な性別役割分担に関することですか。
山田委員	いや、8ページの地域のことにに関するコメントですので、いいです。後で述べます。
岩田委員	山田委員は前のところみたいですから、後からじっくりご意見を。赤池委員の今のご指摘のやつを処理したら、その次に山田委員を指していただければと思います。
村松会長	そうですね、分かりました。では今、赤池さんの決着をつけてしまいましょう。「夫は仕事、妻は家庭」ということを変える。
赤池委員	もう1回調査結果を見ていただきたいのと、これは同じことが後でも出てくるので、もう1回そのとき指摘します。一旦、これは保留にさせていただいて結構です。それと、このページに関してはあと2つありまして、細かいことなのですが、すみません。その前に戻りますが、「働き方・エンパワメント」というのがその前のパラグラフの2行目にありまして、「エンパワーメント」の音引きを入れていただければと。すごく細かくてすみません。
区民生活部男女共同参画担当課長	すみません。では事務局で、「エンパワーメント」の音引きに統一。私のほうでも1回確認させていただいたつもりなのですが、直し残りということで修正させていただきます。失礼いたしました。
村松会長	分かりました。
赤池委員	あと、最後のパラグラフと図に関してです。「審議会では、この2つの課題は1つの分野に属するものではないと考え、『今後の課題』の課題の」というのがくどいかなと思って、『『今後の課題』を『全てに通ずる課題』と『7つの分野』として、以下の図のように整理しました』。この図なのですが、とても分かりやすいといえばそうなのですが、この「全てに通ずる課題」というのは大きなもの、全てに関わるようなもので、入れるのだったらその土台というか、全体に関わるものだとということで、もしかしたら下部に持ってくるほうがいいのかなど。 あと1つ気になったのが「人権」が課題の1つにあるのですけれども、人権とは全てに関わる問題であって、このような図の中の一部で、議論の中ではそうになっていたのはそうなのですが、違和感というか。もう少し全ての基盤になる位置づけ。もしかしたら上に持ってくるとか、というほうがよいのかな。あるいはこの文章を読めば全て分かるので、図は取り立てて入れなくてもいいのかなというのもう一案です。 以上です。
村松会長	人権については、そうなのですよ。基礎なのだけど1つの分野にしてしまっているかというところはあるかもしれないけど、具体的に後で書くと個別のことが書いてあるので、分野として整理したので「人権」という名前になっているという感じだと思うのです。今のところはかなり大きな話になるかなと思います。 それから上の「審議会では」というところが「課題」、「課題」と続いていて、この整理の仕方を。「今後の課題」の次の「課題」という字を取ったらどうか。『『今後の課題』を『全てに通ずる課題』と『7つの分野』の2つに』みたいにしたらどうですか、と。
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	今ご発言いただいたものを整理させていただくと、例えば『『今後の課題』を、以下の図のように『全てに通ずる課題』と『7つの分野ごとの課題』に整理しました』という形で。一案として発言させていただきます。
村松会長	文章のほうで『『今後の課題』を、以下の図のように『全てに通ずる云々』としました』と。それで課題が1つ減りました。
区民生活部男女共同参画担当課長	今、図を取るというご意見もありましたので、会長と事務局で、体裁の部分を文言の整理と合わせてまたご相談させていただきます。
村松会長	今のところはそれでいいと思いますが、この「人権」というカテゴリーといいですか、1つの分野として人権と位置づけたこと自体をいじるとなると、やはりかなり構造に関わってくるところですけど、皆様のご意見はいかがでしょうか。 岩田さん、お願いします。

岩田委員	本当に人権というところごく一般的で、しかも憲法のレベルだと、一番上にあるような。
村松会長	一番上か、一番頂にあるというか。
岩田委員	課題としていうのだったら、「個の尊重」ではないですか。個人の「個」。「個の尊重」ではないですか。
村松会長	「人権」という書き方を、「個の尊重」。
岩田委員	「人権」の中で4つ挙げられている具体論、個別の課題を見ていると、一言でいえば「個の尊重」。個人の「個」。思いつきなのであまり精査していませんけど。
村松会長	そこについて何かご意見……。
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	一旦、山田委員がお待ちなので。すみません。
村松会長	さっきの話の続きで。ごめんなさい。では山田さん、ご発言をお願いします。
山田委員	<p>8ページの、先ほど議論にあった「杉並」か「杉並区」かというところなのですが、これは文言を変えろとかそういうよりコメントなのですからけれども、やはり東京における地域社会、東京のような大都市圏、大都市部における地域社会や基礎自治体の意味とか範囲がかなり曖昧になっていますので、もちろん「生まれ育ち、あるいは転入した人」、転入した人が添え物みたいになって、それはしようがないのいいのですが、いわゆるそれは住民ですよ。</p> <p>でも杉並区の住民は杉並以外のところで働いているケースがかなり多く、そこでセクハラを受ける場合もあるわけで、逆に杉並区に住んでいない人が杉並で働いて、そこでハラスメントなり問題なりを受けるということもあるということで、それは大都市、多分区の職員の方も住んでいる人は確か北区で3分の1くらいだったかな。杉並区の職員の方も杉並区住民でないことが多い。つまり、地方の基礎自治体とは異なった状況があるので、ここら辺は住民とか、さらに杉並区で学び働いている人も含むとか、書き方はともかくとして範囲を広げておくのがいいのかなとは思いますが。でもこれは根本的な解決手段はないので、一応コメントとして発言させていただきました。</p>
村松会長	ありがとうございます。今「何々を含め」という書き方で少し逃げるというご提案を頂いて、助かります。岩田委員、お願いします。
岩田委員	山田委員のご発言はなるほどと思ひまして、具体的な修文をしたら四角の中の「全ての人」が始まっていますけど、この「全ての人」をマイナーに膨らませるのでしょね。「全ての人」の対象を、山田委員がおっしゃったように、ただそこに住んでいる人だけではないと少し広げるような感じ。そこが多分一番マイナーチェンジで、ご趣旨を踏まえて答申がよくなるのかなと思ったのですが、山田先生、こんな感じでよろしいですか。
山田委員	これはどう書いてもこなれないところですので。そういう意味も含めてということ、委員の皆様、と思いましたので。
村松会長	「杉並区に関わる全ての人」とか。
岩田委員	なるほど。「杉並区に関わる全ての人」はいいですね。
山田委員	それはお任せします。
岩田委員	ありがとうございます。
村松会長	分かりました。では、そここのところをもう1回工夫しましょう。
岩橋委員	杉並で「学び、暮らし、働くすべての人」でいいのではないですか。
村松会長	だから杉並区で働いているだけではなくて、杉並区で住んでいて外に働きにしている人もいます。
岩橋委員	住んでいるのは「暮らし」。
村松会長	暮らしている人ですね。でも杉並区の住民が外に働きに行っていてハラスメントに遭ったときには、区の住民として、やはり区の問題ですよ。外で働いているから関係ありません、と言えるのかどうか。それは区民の問題だから、やはり守備範

	<p>囲ですよ。だから、かなり包括的に関わる。どさくさに紛れて「区に関わる人全て」と使ったのですが、とにかくそういう広げておくというイメージです。皆さんのご趣旨は、広く取ったほうが良いということですよ。そのところも合わせて調整しましょうか。</p> <p>ありがとうございます。山田さんはそれでよろしいですか。また、たくさん宿題が出て。また戻っても構わないと思うので、今、未解決のことはありましたか。「こうしましょう」と、私は一応みんな言いましたか。</p> <p>ではそうしましたら、もう9ページに来ていたのですよね。</p>
藤岡委員	<p>9ページの図のところ、先ほど取るか、取らないかという話があって、もし図を残すのであれば、今括弧にいろいろ数字が入っていると思うのですが、これは件数のことを表しているのがぱっと見で分からなくて、あってもなくてもいいのかなと思ったりしているので、取っていただいたほうが分かりやすいかなと思いました。</p> <p>もしこの7つの分野で行く、そして図を乗せるということであれば、「人権」が全てに関わってくるのはもちろんそうだと思うのですが、一方で「取組の基盤」も全てに関わってくると思ったりとか、では地域はどうなのだか思ったりするので、私の意見としては図は取ったほうが良いのかなと思うのですが、お任せします。</p> <p>以上です。</p>
村松会長	<p>「人権」はほかの言葉に言い換えるか。分野のくくり方を、項目としては挙がっているの、それを包括する形で「人権」という言い方を言い換える。「個の尊重」というのが1つ出ましたけれども、その辺はどうですか。「人権」というタイトルのまま、このまま残すか。今、言われたのは、図の中の数字を取るということですね。上に書いてあるから。</p> <p>私も人権が分野の1つに入っているのは少し違和感があると思っただけですが、そこについて何か。「個の尊重」という意見が出ましたが、後の課題を見ていただいて、12ページの「個別の課題」に「人権」とあると個別の課題ではないのかという感じだと思うのですが、「人権」、「教育」、「マイノリティ」、「パートナーシップ」、「個の尊重」、「ハラスメント」。これを包括的に言い表すような。「個の尊重」、これでいいか。今までずっと「人権」で来ていたのですが、最後に来て。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>事務局から、1点補足させていただきます。</p> <p>横山委員がいらしたときにこの人権の部分についてはかなりお言葉があったかと思いますが、横山委員のご意見として差別や偏見に対する取組が必要だとかかなりおっしゃっていたというところで、「人権」という文言がひもづいてきた経過があるかなと。ハラスメントはよく人権領域に入れられる部分ではあるのですが、1と2がそれぞれ差別と偏見に焦点を置いて、横山委員からのご意見もあった部分です。「人権」という言葉を使わないほうがいいのかについては、その流れも少しご検討いただいてもいいのかなと思います。</p>
村松会長	<p>人権のところの方向性は、「誰もが人権を尊重され、互いに認め合う杉並に向けて」かな。「認め合う」。</p> <p>何かありますか。「このまま『人権』でいいのではないか」という方も。そういうご意見もあつたら、お願いします。やはり変えたほうが良いということであれば。「代案はないけど変えたほうが良い」と。そのご意見でもいいし。</p> <p>岩橋さん、お願いします。</p>
岩橋委員	<p>教育や働き方と並んでいるから個別の課題になってしまうという見方もあると分かるのですが、この内容だったらやはり「人権」という言葉をそれぞれの分野の中でぼんと入れたほうが良いかなと思います。だから、言葉としてはそのまま入れていいのではないかと。</p>
村松会長	この記載どおりでいい。
岩橋委員	はい。
村松会長	三戸さん辺りは、何かご意見はありますか。難しい。
岩田委員	鈴木委員が、人権といえば専門家なのですけど。
村松会長	人権擁護委員。鈴木さん、お願いします。
鈴木委員	⑤で「複合的な困難」というように、複合語で見出しが出ていますので、例えば

	これを「人権の尊重」としてはどうでしょうか。要するに狭義の人権、広義の人権があるのだと思うのですけれども、この場合には若干狭義の人権。差別とか偏見とかという意識に対する人権の尊重ということで、と思ったのですが、どうでしょうか。ご検討ください。
岩田委員	「人権の尊重」でいいのではないですか。
村松会長	では取りあえず「人権の尊重」で今日の案とさせていただきます。またもう1回見た段階でいい案が皆さんの中から出てきたらお願いします。「尊重」という字は入っていますよね。では、取りあえず「人権の尊重」にしましょう。ありがとうございます。 では次は、10 ページの「全てに通ずる課題」。さっきの赤池さんの意見はどうなっていたのですか。
赤池委員	ここに関係するので、もう一度。10 ページに関係するので、改めてお伝えします。
村松会長	お願いします。
赤池委員	10 ページの四角の(1)の下から2行目、「人々を取り巻く環境に存在する不平等やジェンダーギャップの変化を促し」とあるのですが、「変化を促し」だけでは不十分かなと。なので、「ジェンダーギャップ、不公正を是正し」というのを提案します。
村松会長	「是正し」。なくす方向ですよ。
岩田委員	ごめんなさい。「不平等やジェンダーギャップ」の後を、何か変えるのですか。
赤池委員	「不公正」。
岩田委員	フェアではない、と。
赤池委員	フェアではない。
区民生活部男女共同参画担当課長	「不平等」が前にありますけれども。
岩田委員	赤池委員がおっしゃったのは2つあって、「変化」だとニュートラル過ぎるから撤廃、解消する方向の、強い方向性のある言葉に変えるべきだと。それは全く同意ですけど、もう1つは「不公正」と入れて、「不平等」、「ジェンダーギャップ」と並べて「不公正を是正する」ということですか。それは、要らないのかなと思うのですけど。 第1に「変化」はよくなくて、「是正」とか「解消」とか、そういう前向きな言葉に変えたほうがいいと思います。「不公正」は、よく分からないです。
村松会長	曖昧な感じがするので、方向性がはっきりしたほうがいいということですね。それとも、「ジェンダーギャップ」のところを変えますか。不公平や差別。上に「差別」と書いてあるのかな。主語になっているのかな。「差別」にすれば、「解消」とかという形で受けられるのですよね。
赤池委員	「ジェンダーギャップ」がいいのか、「ジェンダー規範」。「規範」。
村松会長	「ジェンダー規範」という言葉は、あまりこの中で使ってこなかったから。
赤池委員	「規範」という言葉は多分使われていないのだと思っていて、それはどこかにあってもいいかなと思いました。
村松会長	「ジェンダーギャップ」。性差別ですよ、「性の不平等、性差別の解消に向けて」かな。「ジェンダーギャップ」という言葉をやめる。どうですか。そうすると「不平等」は、何の不平等かという話になるので。
岩田委員	「ジェンダーギャップ」はやはり言葉で定着もしているのです、残したほうがいいと思います。
村松会長	残したほうがいいですか。
岩田委員	残してください。
村松会長	前文で「ジェンダーギャップ」を使っている。
岩田委員	「ジェンダーギャップ」は意識の問題もあるのですが、実際にギャップ指数などで出ているのは世の中の本当に客観的なものですから、それは「客観的な対象を是正する」とか、「不平等」とか、あと「不公正」。おっしゃったやつと並ぶ客観的な困ったこと。それを是正していくべきだという文意にすればいいと思います。
村松会長	「不平等」も「ジェンダーギャップ」も、「是正」で受けられる。

岩田委員	そうです。「解消」か「是正」だと思います。
村松会長	「解消」はゼロにすることですから。「解消」まではまだ目指せないかもしれないから、「是正」でごまかすかということですね。
岩橋委員	「解消」でいいと思います。
村松会長	「解消」というと、もう解消を目指すべきであると。
岩田委員	目指すところはそうですね。
村松会長	向けてだから、向けて区を取組を推進するということだから。だから「解消」を使いましょう。「ジェンダーギャップ」は残して、「不平等やジェンダーギャップの解消を」。
区民生活部男女共同参画担当課長	「解消し」。
岩橋委員	「不平等やジェンダーギャップを解消し」。
村松会長	「解消し」。分かりました。「解消し」で受けるそうです。ありがとうございます。解決してきました。やはり皆さんの知恵が集まると直ってきますね。ほかにはいかがでしょうか。オンラインの方は、手は挙がって。大丈夫ですか。
赤池委員	度々失礼します。 2番目の、「性の多様性への人々の理解不足や偏見」。「人々」は要りますか。「人々の」はなくてもいいのかなと思いました。
村松会長	主語。これがなくていい。
赤池委員	「多様性の人々の理解不足や偏見」。人々だけではない。事業体とかもあるのかなという気もして。
村松会長	「社会に厳然とあり」で受けているから、なくても大丈夫かな。でもこれは「差別が厳然とあり」。この文章は「理解不足」や「偏見」、「差別」が並んで「厳然とあり」ということになっているのです。であれば、「人々」がなくてもいいですか。では、「人々」を取る。「多様性への理解不足」。「人々の」だけを取ればいいですか。
岩田委員	細かな話ですけど、「性の多様性への」ではなくて「についての」だと思います。
村松会長	「多様性についての理解不足や偏見、差別が未だ社会に厳然とあり」。ありがとうございます。ほかは、よろしいですか。では、赤池さん。
赤池委員	最後のパラグラフです。区とか国の調査の数字が書いてあります。この区の調査が男女共同参画に関する意識と生活実態調査報告書の7ページであるならば若干注意が必要で、男性、女性ともに24%、23.5%で同程度というのがあって、あと一人暮らしのため自分で行っているというの26.6%、23.9%あって、これは数字だけ見ると男性が3.6%、女性が43.9%と、それだけが割と強調されるような数字でぱっと見られるのですが、調査の実態は回答項目が男性、女性だけではないのです。そこに該当しない人も回答者の中に含まれているため、数字がぱっと出てしまうと誤解が生じたまま数字が独り歩きしないか。
区民生活部男女共同参画担当課長	確認させていただいていいですか。本版の9ページですか。今ページ数をおっしゃったのは、どちらの調査結果か。
赤池委員	7ページです。
区民生活部男女共同参画担当課長	概要版ですか。
赤池委員	本編でないかな。 調査自体が、回答項目が「女性」、「男性」と「男女ともに」と、あとこれは一人暮らしも結構ボリュームがあるのですよね。一人暮らしのために自分で行っているというのが、26.6%と23.9%。回答の男女に該当しない割合にそれなりにボリュームゾーンがあって、その中の男性、女性だけを抽出して表現することにやや注意が必要ではないかというのが私の意見で、もしかしたら注釈でそのようなことを少し補足するなりということがあってもいいのかなと。

	なぜまたそのように思ったかという、以前宿題で未来像とか課題、方策を提出する機会がたしかあったかと思うのですが、その際に区の子育ての調査で、共働き、子育て世代の増加で、子育てを主に父母両方でやっているという割合が結構増えているのが私の中で印象深かったのです。なので単純に比較できないのですが、ややそこと乖離があり得るということがありまして。
村松会長	もう少し正確に書いたほうがいいと。
赤池委員	そこだけを抽出して数字を書くよりも、もう少し。
村松会長	国の調査の数字と、これが並ばないということですよ。
赤池委員	国の調査はどういう質問項目を立てているかまで私は確認できていないのですが、この区の調査の報告書だけを見るならば、回答項目にそのような回答があるがゆえに、男性と女性だけを抽出して数字を書くということではやや不正確ではないかと思えます。
村松会長	もう少し丁寧に書く。本文で脚注をつけるか。とにかく、もう少し正確に書いたほうがいい。丁寧に読んでいただきまして、ありがとうございます。そのところは、もう1回よろしく願います。 意識のほうで聞いていると思うので、国は多分そんな細かいことを聞いていないと。ありがとうございます。 では、10ページはよろしいでしょうか。11ページもよろしいでしょうか。
岩田委員	10ページの四角の下の、2段目のパラグラフです。下から4行目に「令和6年度成果は16.7%」とか、下から3行目に「当該年度成果が」と書いてあって、それぞれ年度の後には「の」と補ったほうが日本語としては素直かなと。「6年度成果」というものが存在しているわけではないので。客観的にこれというのがあるわけでは。「6年度の成果」だと思えますし、「当該年度の成果」だと思えます。 それから11ページは後で言わせてもらうこととして、10ページの数字を紹介しているやつで、私もさぼって追えていないのですが、特に国の調査のやつは大丈夫なのですよ。数字に間違いはないか。
区民生活部男女共同参画担当課長	こちらに記載もあるものでして数字は確認してございますが、もちろん再度確認させていただきます。
岩田委員	よろしく願います。 3つ目のパラグラフのところは、今、会長がまとめてくださったように、国の調査と区の調査を分けると。それはもう頭がごちゃごちゃになってしまうのでいいと思います。
村松会長	それは、区別して書いたほうがいいということですよ。
岩田委員	はい。 あと赤池委員が指摘された、「主に女性」が43.9%、「主に男性」が3.6%というところは、これだけ書くと誤ったメッセージになってしまうので、区の調査だったら一人暮らしにしているというのが26%もあるので、それを明示的に書くか、書かないのだったら「男女で暮らしている人の中では」とか入れると、そんなに間違いではないと思いました。1つのアイデアです。失礼します。
村松会長	その辺は、とにかく正確に書く形で。注というのは、ほかにもありましたか。出典が違うのはありましたか。
区民生活部男女共同参画担当課長	基本的には出典は内閣府の令和6年度の男女共同参画社会に関する世論調査と、あと杉並区の調査は主に男女共同参画の意識と生活実態調査ですが、一部区民意向調査でも確認させていただいているところでございます。
岩田委員	出典については、最終ページの下のほうに書いてありますね。1、2、3と。
区民生活部男女共同参画担当課長	一応、最終ページに。この部分です。出典の調査に関しては、私のほうで確認させていただいた調査の記載を付け加えさせていただきました。
村松会長	でも今の、区の調査の回答の選択肢がどうなっているかみたいな注を、そこまで持っていくと遠過ぎますよね。その書き方は工夫します。お任せいただいていいですか。正確に書けということ。
区民生活部男	もし比較が相当でなければ、こちらで確認の上、先ほど赤池委員がおっしゃった

女共同参画担当課長	ように見る側面によって印象が変わるということであれば、削除してしまうという考え方もあると思いますので、この辺の数字の取扱いについてはまた事務局からも先生とご相談させていただきます。
村松会長	ご指摘ありがとうございます。
藤岡委員	さっき出典の話が出てきていて、最後に書いてくださっているということだったので、2つ目のパラグラフでは注をつけていただいているのですが、3つ目以降もそれを採用していることが分かる記述になっていると分かりやすいかなと思っていて、例えば「前述の国の調査では」という形で書いていただけると。例えば11 ページの一番最初のパラグラフとかは、どこから出所があるのだろうというところが分かりにくいので、つけていただければと思います。 あと誤植なのですが、11 ページの2行目に「以下『性の多様性条例』』というのがかぎ括弧になっているので、直していただければと思います。あと3行目に「一方区の調査結果からは」とあるのですが、「一方」の後に読点を打っていただければと思います。 以上です。
区民生活部男女共同参画担当課長	すみません。そちらは事務局の間違いです。大変失礼いたしました。
岩田委員	私も同様の誤記が気になっておりましたので、お願いします。 それのついでですけれども、11 ページの上の段落の、下から2行目の括弧内に「名前・内容のいずれか、もしくはいずれも」という表現がありますけれども、法文の世界では「もしくは」はないのです。だから、「もしくは」が単独で出るのは法文としてはないのです。よく「もしくは」という人がいるのですが、それは口語なので公の文章ではやめたほうがいいと思います。「または」にしてください。
村松会長	「または」にすればいいですね。
岩田委員	「または」が漢字か平仮名かはお任せします。 それと、もう1個。下から3行目の「変化」は、四角の中で議論していただいたように「解消」にしてください。お願いいたします。さっきと同じ議論です。
村松会長	同様にということですね。 11 ページまで、いかがでしょうか。よろしいですか。何かありますか。
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	では11 ページまで進めてご了解いただければ、1時間半経過しましたので、一旦ここで少し休憩を入れていただいてもよろしいかなと思います。
村松会長	私の時計で32分くらいになっているけど、7時40分再開ということでお願いします。
	(休憩)
高見副会長	では進行を代わりながら、進めてまいります。今、12 ページから再開いたします。ここから7つの分野、個別の課題についてなのですが、1個1個「人権」から。「人権の尊重」と先ほど文言が変わりましたが、そこから。最初に会長の思い、考え方などもお示しいただきながらやりたいと思います。ではまず「人権」を、先生から。
村松会長	では、「個別の課題」のところから。 まず「人権の尊重」というところですが、私も読みながら、まさに全てに共通する基盤みたいなところなので、位置づけが難しいとは思ったのですが、今まで上がってきたことを挙げてあって、議論の中でもいろいろなところに人権教育みたいなことが出てきたかなと思っています。それから「性的マイノリティ」云々という2番などに掲げている辺りが今回の答申の特徴といいますか、「男女共同参画の発展形としてのジェンダー平等を」という諮問だったので、その辺を反映させた形に課題として挙げてきていたと思います。
高見副会長	今、会長のお考えも伺いましたけど、皆様からこの文言にいろいろご意見があれば伺います。時間も限られておりますのでさくさくやりたいのですが、ご意

	見を伺います。では、藤岡さん。
藤岡委員	<p>人権というか全体的なところなのですけれども、以前、前回の審議会で「こういった文言にします」みたいなところを一例としてお示しいただいていたところではあるのですが、改めて個別の課題と、あと17ページ以降の方策を見比べたときに、ほぼニアリーイコールというか、みたいなところがあるのかなと思っていて、なかなか課題と言い切るのが難しいのは難しいと思うのです。ただここも諮問で求められているものが課題なので、言い切ってしまうくらいでもいいのかなと思ったりしています。</p> <p>具体的にいうと、例えば「全てに通ずる課題」だと「固定的な性別役割分業が課題としてあります」ということが述べられていて、それに向けてこういう取組を推進する必要があることが課題として述べられていると思うのですけれども、この今回の個別の課題を見ると、「こういう取組が必要です」となっていて、その手前にある「では何でその取組が必要なのだけ」という課題のところが明示的には述べられていないのかなと思っています。なのでどのように修正するかは1つ1つ見ていかないといけないと思っているのですけれども、例えば1の部分だと「人々の意識の中にまだ差別や偏見があります」みたいなことを課題として書くのであれば、そういった書きぶりになるのかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
高見副会長	今の藤岡委員の意見は、例えば1でいうと、「人々の意識の中にある差別や偏見」。この辺りまで、ということですよ。これが課題。
村松会長	偏見の解消が課題であると。
藤岡委員	「そのための人権教育が必要です」というのはアクションの話であって、例えば17ページに「そういった人権教育が求められています」とは書いてあるので、もうここでいいのかなと思っているところからすると、この差別や偏見を解消するというところが、この「個別の課題」では具体的に言う必要があるところなのかなと思っています。これは(2)の①の1だけではなくて、それ以降全てそう思うところではあります。
村松会長	諮問そのものが課題と方策という形だったので、最初この整理をするのも結構あれだったのですよね。方策と課題を区別するというので、方策でより具体的に書いたけど、おっしゃるとおりもう少し課題を短く、「ここまでが課題です」と言い切ってしまう形もあり得る。全てその形でやっていくことが恐らく可能ですよね。短めに言い切ってしまう。結局課題の中に方策まで書き込んでしまっている感じになっている、というご意見ですよ。
区民生活部男女共同参画担当課長	それは、事務局で最終的に整える作業がありますので確認させていただきます。例えば①の「人権の尊重」ということになっていますが、「人々の意識の中にある差別や偏見を解消するための人権教育が必要です」という文言を会長から頂いていますが、これを「差別や偏見を」。人権教育はそもそも横山委員から前回も出ていたご意見だと思いますが、これを言い切るというのは「必要です」では足りない。つまり、文言として変わるということですか。
藤岡委員	例えば「人々の意識の中にある差別や偏見を解消しなければならない」みたいな形、もしくは「人権教育が足りていない」というのが課題になるのかなと思います。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございます。例えば今おっしゃっていただいたように、「解消しなければいけない」。そして、例えば17ページの①では「幼少期から成人期まで」ということで人権教育を広く捉えた表現で頂いておりますが、人権教育というのは方策に入るものであって、課題では「解消するべきである」という問題提起の言い方がいいのではないかと、というお考えの捉え方でよろしいでしょうか。
藤岡委員	はい。そちらに修正できるのであればいいと思っているのですけれども、もちろん限られた時間ではあるので、マイナーチェンジというところでいうと「必要です」を「不足している」に置き換えてしまって、そこから考えるでもいいかなとは思いました。
区民生活部男女共同参画担当課長	今ある後半の全文の1つ1つに関して修正を踏まえるということで、それを会長のほうで一旦ご修正していただくこととなりますが、そういう形でよろしいですか。皆様のご意見の中でこちらの作業を確認させていただきますが、会長のほうではまたいかがでしょうか。

岩田委員	<p>ここは課題にとどめて、方策は全部削除でいいと思います。例えば1だったら、「人々の意識の中にある差別や偏見を解消する」。このことが課題で、そのために人権教育が必要。人権教育が足りていないのが課題だというものもあるので、その切り方はあると思うのですが、サブの課題とメインの課題というか、次元の問題で。でもやはり人権教育を強めるのは方策なので、方策はとにかくカットしたほうがすっきりすると思います。本当に今ほぼちゃんときれいに書いていただいているので、全部「こういう課題があって何々が必要です」という文章になっているので、「何々が必要です」の部分を方策に回し、ここからは削除すればいいのです。多分ほぼ機械的に10分もかからないで作業できると思います。元がいいので。</p>
村松会長	<p>割に、そのように直せるところ。例えば今の人権の2番などだったら、どう直せばいいですか。</p>
岩田委員	<p>「性的マイノリティの当事者やその家族や友人等周囲の人々が、差別や偏見にさらされる」。その解消が必要、ということになると思います。課題は、差別や偏見にさらされていること。課題としての言い方はその是正か。差別や偏見から。多分そんなに中身をいじる作業ではなくて、単に文章を書き分けるだけで対応できると思います。細かいところで微妙なところはあるのですが、それは事務局と会長、副会長で調整して、次の案を作っていただければ足りるのかなと思います。</p>
高見副会長	<p>この点に関して意見はありますか。</p>
赤池委員	<p>例えば人権教育が不足しているか、していないかという個別具体的な杉並区の細かいことに関しては、残念なことこの審議会の中ではそこまで言及が、限界があったということだと思うのです。この短い時間の中で事務局は本当にいろいろと手を尽くしてくださったり、ヒアリングしてくださったりしたのですが、それがある意味課題であると分かったことが1つの大きな成果ではないかと。それを受けた上でのまた次への答申なり行動計画なりが、何か示せばいいのではないかと思います。</p>
藤岡委員	<p>先ほどの赤池委員の話をお聞きして、やはり人権教育が不足しているみたいな方策のところまで言及するのは確かに難しいと思ったので、方策を取ってしまうというご意見で私もいいかなと思いました。</p>
高見副会長	<p>要は文言の細かいところはもちろん調整が必要だけれども、方策を取って課題感を出す形で整理するというところでいいですか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>事務局でもう一度整理させていただきます。今のご指摘から、「方策を取ってしまう」という言葉の意味の部分の確認でございます。</p> <p>先ほどの、いわゆる課題の中で人権教育であるとか、差別や偏見から守られるという方法論に相当する表現の部分は方策にある状態でよく、課題では問題提起の部分で止めておけば重複部分がないのではないかとというご指摘でよろしいでしょうか。その場合に赤池委員のご指摘のように、いわゆる審議会の議論が及ばなかった部分については言葉を生成しない形であるべきだと思いますので、事務局では議事録等で委員のご意見を全て確認しながら見せていただいておりますので、皆さんが使われていない言葉をあまり展開しないような注意で全体を見させていただきたいと思いますが、そのようなことで会長、副会長と整理させていただくという考え方でよろしいでしょうか。</p>
岩田委員	<p>課長がまとめていただいた趣旨でございます。</p> <p>あとテクニカルな話で、まとめることの便宜を考えると「何とかをすることが課題」とかやると手段、方策と重複感があるので、物によりますけど課題は困ったことにとどめてもいいと思うのです。どこでもいいのですが、例えば13ページの11番だと「給与や待遇の格差が存在している」とか。そういう困ったこと、対象を挙げるだけで課題のところはいいのかなと。そのために何をするかは3番の方策に回せばいいので、そのほうがすっきりする気もします。課題を設定すると「こういう事態があるから、何をしなければいけない」にまでなるので、「何をしなければいけない」は方策とかぶってくるので、もういっそのこと、困ったこと、対象だけ列挙する感じでもいいのかなと。</p> <p>幾らでもありますよね。5番だったら「学校とかの現場において、ジェンダーや性的マイノリティへの差別が再生産されている」でとどめるとか。そうしたほうが多分まとめやすいし、文章も簡潔になるかなと思いました。お任せしますけれども、</p>

	よろしくお願いたします。
高見副会長	この点は、どうでしょうか。特に審議会で異論がなければ。
村松会長	「これが課題です」と言い切るためには、かなりエビデンスが欲しい感じにして。それを言い切るのが難しいので、「何が足りない」とか、絶対的に不足しているわけではなくて、足りないみたいなどころ。「何が必要です」という言い方でカバーしているところがあるので少し書きにくくなるかなと気もしないではないですけど、どうでしょうか。
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>全体を整える部分なのですけれども、事務局側として答申として整える際のお話として、先ほど私が申し上げたように、今会長もおっしゃったエビデンスの部分です。事実として断言することのリスクです。それは審議会でそこまで議論されたのだろうかということ踏まえることはできるのだろうかという意味で、「必要だと感じている」という審議会の意見を捉えている表現が「必要です」という表現を頂いていると私は理解しておりましたので、「必要です」を取って、例えば「人権教育が不足している」もしくは「人々の意識の中にある差別や偏見を解消すべきである」というのはやはり茫漠な概念ともなりますので。かつ櫻井委員のほうで「整理の際には、捉えている問題の粒度の大きさがある程度そろえてほしい」という言葉が何度かありましたので、私のほうでもそういった形では見させていただいておりました。</p> <p>審議会としてそれを事実として捉えたと断言するというメッセージも発することになりますので、その整理についてはご検討いただく必要があるのかもしれないと思っております。</p>
岩橋委員	ここで今皆さんがおっしゃっているのは、理屈ではとてもよく分かるのですが、今まで議論してきた前回のまとめが全部「必要」で終わって止めてあるのですよね。そのところが今の案の文章では「必要です」になっているということで、基本的にここまでここで議論してきた内容がまとめられていると。確かに読んですっきりはしないのだけど、もともとそんなにすっきりしていないので、私はこのままでいいのではないかなと思っていて、特に断定することの危険性は確かにあります。
岩田委員	私はふらふらしているので、今の岩橋委員の意見を受け入れます。さっきまで私が言っていたのは全部撤回します。
高見副会長	<p>議論がなかなか尽きませんが、どうでしょうか。確かに岩橋委員のご意見は非常に納得できることなのですけど。</p> <p>イレギュラーですけど山田委員がこの後時間が限られているということで、今の点も含めて7つの分野をまとめてご発言いただければと思うのですが、山田委員、聞こえますでしょうか。</p>
山田委員	聞こえておりますが、特に私は時間は限られていると書いた覚えがないので、全体の時間が限られているという意味で書いた。では、お先でよろしいですか。
高見副会長	結構です。
山田委員	<p>では7分野で少し気づいた点を述べさせていただきます。まず12ページの②の5の「ジェンダーや性的マイノリティへの差別が再生産」は、ジェンダー差別が再生産されるイメージです。ジェンダーが再生産されることはない。これは、ただの確認です。</p> <p>あと次の③の11番で、これは「性別や正規・非正規など雇用形態の違いによって生じている給与や待遇の格差」。性別で給与に格差が生じたらそれ自体は違法なので、ロジックとしては性別によって正規・非正規という雇用形態の違いができて、それが格差につながるということだと思いますが、書き方を工夫していただければと思います。</p> <p>あとまた細かいところですが、④の15番で「町会や自治会など地域を形成」という言い方が不適切なのは、「地域を構成」だったらいいです。「地域社会を構成している諸団体」がいいのか、もしくは「地域の中に根づいている」とか。私としては町会、自治体だけではなくて、商工会などの業界団体とかそのような中間集団も例示していただけたらありがたいと思っております。</p> <p>あと⑤なのですけれども、「複合的な困難」の中に20番や21番が入ってしまっているのは違和感があります。20番、21番はまさに性暴力の問題なので。</p> <p>あとはパワハラ、セクハラは別のところ、③の13番とかにも記述はありますのです</p>

	<p>れども、どちらかという性と性暴力に対する記述が全体として弱い。項目で立っていないので、弱いのかなと思いました。ご存じの方がいるかもしれません。たまたま今日の午前中に内閣府の第6次計画の素案が出てきて、その中で「女性に対する暴力」にするか、「ジェンダーに基づく暴力」にするかで議論があったのですけれども、結局は「ジェンダーに基づくあらゆる暴力」という項目を1個立てることになりましたので、もちろん書いてあることは確かなのですけれども、弱いかなという気はいたしました。</p> <p>あとは、これも私は男性なのでよく分からないのですけれども、⑥の健康の28番なのですが、ここだけ突如生理用ナプキンという具体的なものがいきなり出てきているのは、何かあるのかなと。私は男性なので使用することがないのですが、突如これが具体的例として出てきたのは何かあるのかなということがあります。</p> <p>あと戻りまして、③の13番で、これもエビデンスのことなのですけれども、カスタマーハラスメントについて書いていただいたのはありがたいのですが、カスタマーハラスメントが深刻化しているかどうかは実はデータはないですよね。昔から取っているわけではないので。やはり今一旦話題に上がったからというかやっとなら認識されたということなので、その点も文言等をご検討いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
高見副会長	<p>今幾つかご指摘いただきましたけれども、委員の中でこの点について、7分野全てに広がりましてけれども、山田委員のご意見。</p> <p>では岩田委員、お願いいたします。</p>
岩田委員	<p>山田委員がおっしゃった点は、全てうなずけるところでございます。</p> <p>あと、それ以外のところでまた気になったところは、一番上の四角のすぐ下の「審議会では、第1回から第5回」ではなくてもう6回やっていますよね。だからこれは回数は書かなくて。「当審議会は」。8回でいいのではないですか。「8回にわたる審議会における議論及び資料の検討」でいいのではないかなと思います。</p> <p>あと、それから12ページ一番下の行ですか。「性別役割意識」ではなくて「性別役割分担意識」で統一されているのかなと思うので、ここは脱漏かなと思っています。</p> <p>あと、本当に言葉だけなのですが、9番に「子どもたちが」、「話したり、相談できる取組」とありますよね。「話したり、相談できるための取組」だと思います。</p> <p>それから、14番。「意思決定に関与できるジェンダー平等の実現には、まず区が実践する」。「実現に向けて、まず区が実践する」のほうが日本語として素直かなと。</p> <p>それから山田委員がおっしゃった20番、21番。弱いという話だったので、例えばこの2つを①「人権の尊重」に入れてしまうと。だから性暴力はまさに深刻な人権の問題だと思うので、その辺りは委員の皆さんによって意見が変わるかもしれませんが。</p> <p>それから28番。今、山田委員がおっしゃったところではありますけれども、確かに唐突で次元が違うかなと思いますけど、これは割とここ何年か急速に社会で認知され進んでいる取組の典型例だと思いますので、「等」が入っているのでもいいと思います。「生理用ナプキンの」と入れたほうが素直です。「生理用ナプキン無料配布」とかいうと、イベントの名称みたいですから。そういう細かいところが気になってしまうので、すみません。</p> <p>それから見逃しているかもしれないのですが、ほかにもあるかもしれないのですが、戻って15番。ここはあまりこだわらないのですが、「町会や自治会など地域で活動している諸団体」でいいかなと。あと個人的な意見で皆さんに聞きたいのですが、「諸団体」ではなくて「諸団体・人々」。個人でやられている方もいらっしゃるし、そういう人たちとも協働して進めていくべきことも多いと思いますので、そこはぜひ「・人々」を入れて欲しいです。</p> <p>それから、同様の視点で31番です。2文目の「地域で活動する市民団体の育成・支援」。「育成」は上から目線過ぎますよね。なので「地域で活動する市民団体」、ここも「・人々」を入れていただいて、「市民団体・人々との協働・支援」。「協働」を後ろにして「支援・」。でも、やはり「市民団体・人々との協働・支援」。少し違うね。その趣旨を入れて欲しいです。要するに団体と個人で活動している人がいて、その人たちが育成するのではなくて一緒にやっていると、サポートするという視点</p>

	<p>を入りたいです。 14 ページまでについては、以上です。</p>
高見副会長	<p>では櫻井委員、お願いします。</p>
櫻井委員	<p>私からは 14 ページの⑥「健康」の 26 番で、「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」と書いてあるところを「セクシュアル」を入れたほうがよいのかなと思っていて、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」がよいかなと思います。あまり「アンド」と片仮名で表記することがないので、こういった場合はスラッシュで表記しているかなと思うので、「セクシュアル」を入れるのと、「アンド」をスラッシュに変えたほうがよいかなと思いました。 以上です。</p>
高見副会長	<p>ありがとうございます。</p>
岩田委員	<p>質問です。今の櫻井委員のご意見なのですが、理解が及ばないところがあって、「セクシュアル」を加えると文意が違いますよね。「セクシュアル」をここで入れて。どういうことなのですか。セクシュアリティを大事にしているのだと教育する、ということですか。リプロダクティブ・ヘルス／ライツとは違うテーマだと思います。教えてください。</p>
櫻井委員	<p>今回、杉並区のこの内容は多様な性の方々も包含する内容かなと思っていて、通常であれば「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」が書かれがちなのですが、今回セクシュアルヘルスのところで、自分の性に関することを心身ともに満たされて幸せを感じて、その状態が社会的に認められているということと、あとセクシュアル・ライツのところセクシュアリティを自分自身で決められることができるという意味が、まさにこの答申の内容には入っているかなと思うので、そういった点でいうと「セクシュアル」を入れたほうがよいかなと思っています。通常入れてもらえないことが多いのですが、今回の趣旨だと入っていたほうがよいのではないかといいところですか。</p>
岩田委員	<p>ありがとうございます。ご趣旨がよく分かりました。 そうすると、セクシュアルをもう少し出したほうがいいですよ。これは、26 番の頭が「予期せぬ妊娠に関する知識など」になっているので、まさにリプロダクティブ・ヘルス／ライツの話なので、セクシュアリティの問題は別の項目にしてもいいのか。駄目ですか。</p>
櫻井委員	<p>恐らく「予期せぬ妊娠に関する知識など」のところ、「知識や」と何か1つ入れていただき、「などの包括的性教育を含むセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ全般に関する啓発」とするか、別に今のままでもよいかなとは思いますが、なので「セクシュアル」を入れることによって自分の性的指向、性自認のこととかがちやんと自分で決められるということだったり、社会的にも認められているという意味が入ることなので。</p>
岩田委員	<p>しゃべってばかりで恐縮です。そうすると読み方として、「リプロダクティブ・ヘルス」にくっつけるのではなくて「予期せぬ妊娠」の前に「セクシュアリティが大事なのだ」という文章を入れて、それで「予期せぬ妊娠に関する知識など」に。セクシュアリティの話と妊娠に関する知識などが「包括的性教育」にかかるようにするのがいいのではないですか、と思いました。櫻井委員はどうでしょう。</p>
櫻井委員	<p>難しいのが、これはセクシュアリティに関することだけでもないみたいなのところがあるので。セクシュアル・ヘルス、リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアル・ライツ、リプロダクティブ・ライツと4つに切り分けることができるということがあるので、私はこのセクシュアルを今の文章で入れたらよいのかなと思ったのですが、それだと足りないということですよ。</p>
岩田委員	<p>やはりセクシュアルの説明をもう少し加えて、前に出したほうがよいのかなと思いました。ご趣旨として私の理解が及ばないところはありますけど、全く賛成ではありません。ただし、文言が浮かばないです。</p>
村松会長	<p>櫻井さんに質問しますけれども、多分今まで国連などの文書で使われてきたリプロダクティブ・ヘルス／ライツのことに大変な関心、運動があって、日本語では「性と生殖に関する健康と権利」と訳が定まった経緯があり、官庁用語を訂正させているのですが、まさにこの日本語に対してセクシュアルが入っても構わない気がするけど、それは問題ないですか。</p>

櫻井委員	例えば日本でもセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツをやっている J O I C F P とかでも、これに対する訳は「性と生殖に関する健康と権利」としてあるので、そこは問題ないというか、まだ解がないのではないかと思います。
村松会長	分かりました。では「セクシュアル」をつけておいて、括弧の中はまさに性と生殖と書いてあることですが、やはり最初のときは政府が出してきた文書が「妊娠と出産に関する健康と権利」と訳してきたのですよね。女性たちが動いてこの「性と生殖に関する」と直させた経緯がありますので。でも、今おっしゃったセクシュアルを含めると、この日本語でちょうどいいのかなという気はします。ありがとうございました。
高見副会長	ほかの点も含めて、何か。では赤池さん、どうぞ。
赤池委員	答申の 14 ページの 2-2 「7つの分野」の①の「人権の尊重」の 1、「人々の意識の中にある差別や偏見」。これは「意識の中にある」と書く必要はありますか。これがなくても、「差別や偏見を解消するための」というほうがスムーズではないかと思えます。「人々」も要らないかな。「差別や偏見」だけでいいのではないかと思えますけど、いかがですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	多分こちらも横山委員のときの人権教育というところを受けた表現ではないかという理解をしておりますので、その辺りのご確認もお願いしたいかと思えます。
赤池委員	<p>であるならば、「人権教育」にかかる言葉としては「差別や偏見を解消するための」で十分だと思います。</p> <p>2番、「性的マイノリティの友人など周囲の人々が」。あとこの「など」が開いたり閉じたりしているの、それはご確認いただきたいとして、「周囲の」という限定的な言い方はどうなのかなと思いました。「関係する」とか、もう少し広がった言い方のほうがいいのかなと思えます。</p> <p>②の「教育」の 5番、さっき山田先生がおっしゃったように「ジェンダーへの差別」はおかしいので、「ジェンダーに基づく差別や性的マイノリティへの差別が再生産されない」。「教育の仕組みが必要です」とあるのですが、教育の仕組みというのは非常に大きな話であって、もう少し包括的な感じで「取組が必要です」くらいにとどめておいていいのかなと思えます。</p> <p>9番はさっき岩田さんからもありましたが、それはそれとして、日本語的用法で「話したり相談できたりする」と「たり」の用法であるならば、2回続けるのが日本語的には正しいのかなと思えます。</p> <p>10番、「学校教育において多様な性をはじめとした性的マイノリティの子どもが困りごとを抱えることなく」。難しいのが、性的だけではなくてマイノリティの子どもも非常に困りごとを抱えているわけであって、それをどうするかと考えるならば、もしかしたら「性的」も取ってしまって、「多様な性をはじめマイノリティの子どもが困りごとを抱えることなく」としたら、もう少し包括的なこととして捉えられるのではないかと思います。あと、引き続いて「安心して学べる環境であることが必要です」は、「環境を整えることが必要です」くらいにしておいていいのでしょうか。</p> <p>次に、14番。「意思決定に関与できるジェンダー平等の実現には」。ここは「ジェンダー平等を実現するには、まずは区が実践することが必要です」。あるいは実現が必要だということをもう少し強めに言うならば、「ジェンダー平等を実現することが必要で、そのためにはまずは区が実践することを求めます」とか、そんな言い回しではいかがかと思いました。</p> <p>続いて、「地域」の 16番。これは、「性的マイノリティなど地域に住む人の多様性が理解され」。先ほど山田先生からもありましたが、これは一応地域の話はしているのだけれども、地域に住む人だけに限定していいのだろうかという疑問もありまして、「地域という枠組みの中での性的マイノリティなどの多様性が理解され」と、「地域に住む人の」を取ってしまってもいいのではないかと思います。と、その後続の文章で、「誰もが制度や仕組みを利用しやすい地域であるための取組」。これを、「利用しやすくなる地域にする取組」という言い回しではいかがでしょうか。</p> <p>続きまして、17番。災害時に関することで、「安心・安全な地域であるための取組が必要です」と。この「安心」は、この文脈では取ったほうがいいのではないかと思います。というのも、トランス差別に関しては安心・安全が多義的に捉えられ</p>

	<p>ていて、その使い方に慎重であるべきとするフェミニズムの研究知見が最近広がりつつあります。当事者団体等の専門家に聞いたところでは、「安心」は心理的作用を伴い、一緒に使うのではなく「安全」で十分ではという意見もありました。なお、自然災害時に心理的安心を担保すること自体がそもそも困難であって、多くの人が不安を抱えている。例えば子どもなどがそうであるように、それを前提とした備えが必要という意味であることから、特にここで「安心な地域」と災害時にあえてうたわなくてもいいのではないかと思います。ここも「地域である」というより、「地域を作る」というほうがいいかと思います。</p> <p>18番、ケアに関することをいっていただいております。表現をもう少し丁寧にはいかがかなと思ひまして、例えば案ですけれども、「育児、家事、介護など人の営みに欠かせないケアは、少子高齢化が進む中、誰もが直面し得る課題であることを前提とし、社会全体で担うための理解と実践を進める取組が必要です」。</p> <p>続いて、「複合的な困難」。これはDVや性暴力に関することをもう少しここではなく別の、というのは私も賛同します。それはそれとして文言に関するものでいうならば、20番。後ろのほうの文章ですが、「支援に繋げる取組の強化が必要です」。「繋げる」は、「繋がる取組の強化が必要です」のほうがいいのではないのでしょうか。人を誰かがつなげるというよりも、「支援につながっていく」というほうが、主体的な行動を誰もがとれるよう、行政なりが、というニュアンスです。</p> <p>続いて、21番。多様な暴力を受けたときの対応について。これは受けた側のことだけが書いてあるのが不十分で、そもそも暴力をなくすことを先に書くことが必要ではないかと。そのために、「多様な暴力をなくし、もしも被害に遭った場合、二次被害などを受けないよう個人の尊厳が守られ、日頃から適切な知識を得られる取組が必要です」ではいかがかと思ひます。</p> <p>⑥「健康」の中の、24番です。「誰もが健康でいられるための適切な情報発信または必要なケアに繋がることができて」と。ここは文章がやや不足しているので、「適切な情報が得られ、必要なケアに繋がることができる」に変えてはいかがでしょうか。</p> <p>27番、これは多分女性特有の疾病だとか更年期の話だとか、最近男女センターでいろいろな講座が行われ、私も男女センターの事業の専門のコーディネーターをやっていた経験がある中で、更年期に関する講座は大変好評でありました。そんなものを意識するならば、女性特有の疾病みたいなものを文言に追加したほうがいいのではと思ひます。冒頭の部分を、「区健康診断や特定の疾病、女性特有の疾病に関する検診など」としてはいかがかと思ひます。ここでも「区民の」とあるのですけれども、最初に山田委員がご指摘なさっていたように、これは在学、在勤も含まれるということがありまして、そこは確認の必要があるのかなと思ひました。</p> <p>では、14ページまでは一旦以上です。</p>
高見副会長	ありがとうございます。では続けて鈴木委員、お願いいたします。
鈴木委員	細かいところなのですけれども、13ページの一番上の8番で、「学校教育において、生徒に対して」となっているのですが、学校教育を対象にするのであれば「児童・生徒」になるかと思ひます。
高見副会長	ありがとうございます。
	今までの各委員のご意見について、何かございますか。具体的な文言を赤池さんにおっしゃっていただきましたし、特に曖昧なところはなかったのですけれども、何か。では、意見を踏まえて少し文言を調整ということで。
三戸委員	三戸さん。
赤池委員	赤池委員から②「教育」の10で「マイノリティの子どもたち」のほうがいいのではないかというお話があったかなと思うのですけれども、今回の審議会で出た内容としては性的マイノリティの子たちの困り感とその方策のお話が出ていたかなと思うので、「性的マイノリティ」の言葉のままでもいいかなと個人的には思ひました。
赤池委員	例えば性被害に遭っているとか、性虐待に遭っているとかという子どもはどうかを考えると、「性的マイノリティの子どもはもちろんのこと、性に関する困

	り事や悩み事を抱えることなく」。学校か。
区民生活部男女共同参画担当課長	事務局から補足させていただきます。 これは議事録でも一応内容を確認している部分でして、10番の元になっている部分の委員のご発言は、確かに三戸委員の「性的マイノリティの子どもたちが、学校における相談をなかなかできない」と。そういったことを元にした10番と一応確認しておりますが、意味合いに含めましてもまたご確認の上でご議論を頂ければと思います。
赤池委員	ではプラスみたいになってしまうのですが、性被害に関することは確かにあまり議論ではなされなかったかもしれませんが、昨今の事情においては、ではそこはどうかという問いは出てくるのかなと思います。それをどう踏まえるかは、少し考えます。
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	すみません、事務局から。大変申し訳ございません。議論いただいているところ恐縮ですが、会場が9時までとなっておりますので、あらかじめご通知おきいただければと存じます。
高見副会長	ありがとうございます。非常に議論が尽きないところではありますが、最後まで行かなければ。 どうぞ、岩田さん。
岩田委員	学校における性的被害は確かに審議会でも議論しなかったのですが、社会的にありふれている大問題ですよ。教職にある連中がいろいろ児童ポルノを共有していましたし。だから性的被害について、もう今この場で議論して入れてしまうのも1つありかなと今思いました。だからセクシャルマイノリティの人とは別だと思しますので、文章を句点で分けるか、それとも項目を1つ増やしてもいいくらいだと思います。
高見副会長	ここについて、皆さんからご意見は。では、藤岡委員。
藤岡委員	教育の部分の話は最近もよく聞く話で、ここで言及できれば一番いいのかなと思いつつも、20番で性暴力の被害とか相談というところがあるので、ここに含める形でもいいのかなと思いました。一案です。 あと少し違う話なのですが、9番、10番に「子どもたち」とか「子ども」とかが出てきていて、7番、8番に先ほど「児童・生徒」という話が出てきたと思うのですが、ここもこだわりがなければ「児童・生徒」で統一してもいいのかなと思いました。 以上です。
高見副会長	今、藤岡さんから、性被害の話は20番の性暴力のところであるからそこでという話がありましたが、それで整理できるのであればよいのではないかなと思いますけれども、皆さんはどうですか。先生、ここまでで何かありますか。何かここまでで。
村松会長	私は、この後の作業を心配して。皆さんたくさん読んでくださって、ご自分のメモでいろいろきちんと書いてあるのだと思うので、特にたくさんご発言くださった方は。一応記録できているかもしれないけれども、「ここをこうしてください」というのをなるべく早く区に送っていただけますか。そのほうが反映できるかなという気がするのです。反映するときに、それを材料にまたこちらでも検討したいと思えます。
区民生活部男女共同参画担当課長	今、私どものほうでは数日で皆様のご発言を全部文字起こしして、それをもって反映しておりますので、そちらに統一させていただいてよろしいでしょうか。個々のご発言で全部一旦文字起こしして、それで後で頂いているものは全部突き合わせていますので、改めてまた頂くと整理がつかなくなりますので。今日のここでのご意見を反映させる形で、進めさせていただきたいと。
村松会長	分かりました。ではそのように。
岩橋委員	確認のようなものなのですけれども、この20、21の暴力の問題は「人権」のところに入れるということですか。
高見副会長	それは、まだ今議論中ですけれども、どう思いますか。今「複合的な困難」に20番、21番の性暴力の話が入っていますけれども、先ほど委員から「人権」ではない

	かという話があって、これは今審議会として何かしらの。
村松会長	意見として、山田さんから性暴力の話があちこちに入っているのだけれども、ということがあったので、「人権」のところで性暴力のことを少しまとめて書くというので私は賛成です。
高見副会長	今、会長からそういうお話がありましたけれども、皆さんそれでよろしいでしょうか。ではここはそういう形で整理して、また皆様にお出ししたいと思います。時間もありますので、先に進んでもよろしいでしょうか。まとめて、15 ページから 19 ページまでが方策の話だと思いましたが、そこまで一旦皆様のご意見を頂戴できればと思います。大分範囲が広いのですけど、ご意見はございますでしょうか。では岩田さん、お願いいたします。
岩田委員	では、まとめて気になったところを列挙していきます。15 ページの一番下の行は「求めています」ではなくて「求めます」だと思います。「審議会は」、「求めます」。それから 16 ページの四角の中の⑥です。「性と生殖に関する健康」というと性的自己決定権が入らないのですけれども、それはそういう意味でよろしいのか。性に関する健康、生殖に関する健康という意味でいいのか。性的自己決定を入れるのであれば、「性と」の後に句点を入れると一応そういう意味になる。「性についての自己決定をする権利を持ち」ということになりますので、ここは細かいところですけど、性的自己決定をここで挙げるのか、挙げないのか、健康だけにするのかというところです。私はどちらでもいいですけど、当たり前のことですがやはり性的自己決定を入れたほうがいいのかと思います。それからこだわりませんが、16 ページの一番下の行の「そって行う」の「そ」は漢字にしたほうが自然かなと思います。それから、17 ページの 1 番。これも言葉なのですけど、「区民啓発」というのがありますが「区民に対する啓発」かなと。それから、2 番。「相談窓口の拡充や居場所を設ける等」になって、「拡充」と「設ける」となっているので、体言、用言をそろえたほうがいいですね。一番簡単なのは「設ける」ではなくて「設置する等」。そうすると「拡充」も「する」で受けることになりますから。「拡充や居場所を設置する等」でいいのかなと。それから、6 番は「行動変容」ではなくて「行動の変容」かな。その前の「増やし行動」ですが、「増やし」の後は読点を入れたほうが意味が的確かなと思いました。それから 18 ページに移りまして、16 番。これは質問なのですけど、「区民や事業者等」の「等」はよく分からない。内容があるのだったら残していいですけど、なければ取ってしまう。それから、18 番。「区民に対する啓発への取組を求めます」は、「啓発の取組」でいいのではないかなと思います。あと、それから 20 番。「共に」が漢字になっていますけど、平仮名のほうが自然かなと思いました。22 番は「周知啓発」となっていますが、これは「啓発」ですか。「周知の取組を求めます」の内容ではないかと思うのです、事務局が書かれているのは。それから、次の⑥「健康」の中の「性と生殖に関する健康について」は「性と」の後に読点を入れたほうがいいのではないかと。それから、26 番。「子どもたちが」、「守ることができるよう」。これはいいのか。ここは撤回します。原案でいいと思います。それから、あと 32 番。先ほど申し上げた趣旨ですけど、「市民団体の育成」は上から目線なので、「市民団体・人々に対する支援や交流の促進」がよろしいかと思います。
高見副会長	ありがとうございます。では山田委員、お願いします。
山田委員	いろいろあるのですけれども 18 ページの④の 15 「地域」なのですが、地域活動における男女平等、つまり女性が下働きで男性が何もしないとか、いわゆる意思決定への女性参画とかリーダー育成が中心になっていて、家庭内だけではなくてそういう地域団体の中における性別役割分業意識をなくす方向でというのも入れていただくとありがたいです。18 ページの④の 15 です。

	<p>あといろいろあるのですけれども、今日は時間がないので取りあえずそれだけお願いします。</p>
高見副会長	<p>ありがとうございます。</p>
赤池委員	<p>15 ページの上から7行目に「ジェンダー視点からの主流化」と、この豊岡の事例という文言なのですけれども、豊岡の報告か何かの中にこの「ジェンダー視点からの主流化」がありましたでしょうか。私がざっと見た限りでは確認できなかった。「ジェンダー視点の主流化」は見つけました。文章をかぎ括弧でくくっている、このまま引用されているのかどうかをもう一度確認いただければと思います。</p> <p>あと、この豊岡のだということ本文に特に入れる必要もあまりないのかなと思っていて、事例としてお示しくくださったというのはあるのですが、豊岡は杉並とは状況のあまりにも違うまちでありますし、ここに入れる妥当性が問われた場合、どのように答えられるのか。注釈でまた例えば豊岡の事例などということを入れたり、ジェンダー視点の主流化はほかの自治体でもやっておったり、今様々なところでいわれているものでもありますから、後ろにも出てきますけど、取り立ててここではなくてもいいのかなと思います。</p> <p>次に、16 ページ。7つの方向性の④は「誰もが地域において平等に暮らし」は「地域で」でいいのかなと思います。すっきりとさせるためには。</p> <p>⑦「ジェンダー平等社会の実現に向けて取り組める体制であるために」は、「体制を構築する」とか「体制を整える」とか、そのくらいの文言に和らげておいてはいいのかなと思います。</p> <p>さっき述べたその後の豊岡の一例に関しては、先ほどと同様です。</p> <p>続いて、17 ページの1番。「幼少期から成人期まで適時人権教育を受けられるよう、学びの機会を提供し」。「人権についての区民啓発」とありますけど、この区民啓発をもう少し具体的に「情報発信や学習機会の充実など」と置き換えてはいいかがかと。またここにも「人々の意識から」とあるので、ここも特に取り立てて要らないかな。「差別や偏見がなくなるよう取り組みを求めます」。構造的差別なんてものもあるので、「人々の意識から」というのはなくていいのではないかなと思います。</p> <p>2番。ここも先ほど申し上げたように、「周囲の人々」というのが。「周囲の」は若干気にかかるので、「当事者やその関係する人々」とかそのような言い方にしたほうがいいのかなと。その後の文章なのですが、「差別や偏見を受けた人のための取組を求めます」と。この受けたことを前提とした書きぶりはきついかないかなと思っていて、例えば「居場所を設けるなど、サポートするための取組を求めます」。あるいはもう少しよい言い回しがあれば、そちらに変えていただいてもよろしいのかなと思います。</p> <p>②の「教育」の10番、「性的マイノリティの子どもたちにとって学校が安心な環境であるよう」とあるところを、「安心して生活できる場であるよう」。ここにも「環境」が後ろにも出てくるので、言い換えてはいいのかなと思います。</p> <p>続いて、18 ページの④。これは先ほど申し上げたように、「誰もが地域で平等に暮らし」。「において」を「で」にしてはいいのかなと。</p> <p>17番は、「地域の防災や災害に関する支援を誰もが受けられ、学び合える安全な地域であるための取組を求めます」。「学び合える」を入れてはいいのかなと思います。</p> <p>続いて、20番。「DVや性暴力を受けた人がためらわず相談に繋がれるよう相談員の配置などを充実させるとともに、情報発信や啓発に取り組む」。「当事者支援に対する」は「当事者を尊重した支援に対する」と言い換えてはいいかがかということ、提案します。</p> <p>21番の「リテラシー」の前なのですが、冒頭にも申し上げましたようにこれは今非常に重要事項であると。もちろん若い世代にとっても重要なので、「若い世代に対しては」と限定するだけではなく、「若い世代をはじめメディアリテラシーに関する取組を求めます」ということではいいでしょうか。</p> <p>22番の「複合的な困難」に関して。後ろのほうです。「一層の具体的な取組および支援情報の発信、ピアサポートやつながる場の創出など、一層充実した取組を求めます」。情報発信だけよりも、近隣の自治体の男女センターなどを含めて、当事者</p>

	<p>同士の場を作ったりとか結構熱心にピアサポートをやっているのですよね。杉並でまだなかなかそこまで及んでいないところが今後の課題かなとも思いますので、そのような「など」ということで一層充実を図れる1つの方策としていかがかなと思います。</p> <p>引き続き、19ページの26番。「子どもたちが自身のからだについて知り、守ることができる」と。自己防衛のことだけ書いてあるので、それだけでは不十分であり、「被害者にも加害者にもならない包括的性教育への取組を求めます」。</p> <p>27番は、「医療や福祉事業者を対象とした性的マイノリティなどに関する意識啓発」。確かにその話が議論されたと認識しているのですけれども、これもそれだけに限定するのではなく、ある意味ジェンダーに関する認識は、ここに関する職業に就く人たちの中での認識もそれぞれであったりするので、「ジェンダーに関する」ということも並列で付け加えてはいかがかなと思います。</p> <p>あと最後に、注釈について。注釈1です。「『ジェンダー視点の主流化』と『ジェンダー主流化』は、いずれも『gender mainstreaming』の和訳」とあるのですけれども、「ジェンダー視点の主流化」は「mainstreaming a gender perspective」という言い回しもありますので、必ずしも「gender mainstreaming」ではないということで、ご検討願いたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
高見副会長	<p>ありがとうございます。もう終わりの時間になってしまいますが、今のご意見を伺って、こちらでまだ文言を詰めないといけないところがたくさんあることが分かりました。今の皆様方のご意見と、我々のほうでも会長ともまだ少し文言の詰めが必要だと思っています。例えば今取組の方策については、一応全部「取組を求めます」という書き方になっているのだけれども、「取組」という書き方のほうがいいだろうという意見で、また、そうはいつでもこれから区とも相談しなければいけないのですが、実際にもう取り組んでいるものもあって、「取組を求める」というものと、「拡充」とか「推進」とか、文言については詰める必要があるかなと。この辺りは、次回までにちゃんと詰めてまいりたいと思います。</p> <p>あとは本当に細かいところですが、例えば16ページに「7つの方向性」と書いてある「方向性」なのだけれど、「であるために」となっていて、これは方向性らしい文言ではないから、「何とかに向けて」みたいな形の文言にしようかとかいうことも相談しているところです。</p> <p>あとは時間もあるのでこちらのほうで最後まで調整したいと思いますが、例えば「取組の基盤」と19ページのところにありますけど、「基盤」について例えば30番に「区がジェンダー視点の主流化を推進するために」と書いてあるけれども、もう少しこの辺は文言を考えたいと。例えば「区民の意識を高め、区の実効性を持たせることを目標にする」みたいな形で、もう少し文言を詰めなければいけないという話をしているところがございます。皆様の意見も踏まえて、その辺りも整理したいと。</p> <p>あとはお任せいただいてこちらで調整しますので、またご意見を頂戴できればと思います。私の進行がまずくて最後の20ページはまだご意見を伺っていないのですが、あとは「区に望むこと」の辺りは今何かお伝えしたいことがありますでしょうか。お時間も限られていますが、一言、二言あれば伺います。</p>
赤池委員	<p>たくさんすみません。</p> <p>私はこのこの文言はこのままでいいと思っているのですが、ただ1つ留意点として、区長部局と教育の関係性を意識していただければと思っています。区長部局が教育に関することにある意味介入的な要素を持たせるのはややばかられるのではないかと考えておりますので、その辺のニュアンスをご検討いただければ。今提示したものに関してはそこまでの柔らかめのご提案を差上げたので、その辺も酌んでいただけるとありがたいです。</p> <p>以上です。</p>
高見副会長	ありがとうございます。
村松会長	今日は皆さんに丁寧に読んできていただいて、細かい修正案、具体的なお提案をいろいろありがとうございました。気がついていなかったこともいろいろあって、とても勉強になりました。あと1回だけですが、今日のご意見を踏まえてま

	<p>た区の中のほかの部局との調整などもしていただいて、次の案をとにかく次回の前に送っていただいて。次回では本当の最後の文言の確認になるので、できればそれ以上の修正はないところまで、事前のやり取りの中でなるべくそこまで目標に近づけておきたいと思って。できれば、もう最終回では確認という感じになると思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。今日の皆さんの熱心な事前チェックを見ると大丈夫だろうと思いますけど、もう1回目を通していただいご協力よろしくお願いいたします。</p> <p>そうしましたら、この後今後の答申の決定に向けた進め方について事務局からご説明いただけますでしょうか。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>まさに今、会長におっしゃっていただいたとおりです。今後の進め方についてこの後会長、副会長と事務局でお手伝いしながら案の修正をしまいたいと思います。修正作業を経て、委員の皆様には第8回審議会の前に改めてお送りいたしました。お目通しいただいた上で第8回審議会に臨んでいただければと思っております。そうした作業、ご審議を経て、9月上旬に区長に答申を手渡していただくという流れができればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
村松会長	<p>今のご説明で、よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。本当に皆さんの熱心な協力のおかげで、あとひと踏ん張りというところまで来たかなと思っています。最終回で本当によい答申を固められればと思っていますので、最後までよろしくお願いいたします。</p> <p>本日も、長時間にわたりありがとうございました。最後に、事務局から連絡事項をお願いします。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>では時間も大分迫ってまいりましたので、2点ご連絡させていただきます。次回の開催日ですが、既に多くの方からもお返事を頂いておりますが、8月29日金曜日午後6時から開催いたします。会場は前回と前々回の審議会で使用しました、同じフロアあります第5会議室となります。先ほど会長からおっしゃっていただいたとおり、次回の第8回審議会が最終回となります。</p> <p>2点目、会議録でございます。本日の会議録は、8月8日頃に初稿をお送りさせていただきたいと思っております。ちょうど夏休みに入られている委員もいらっしゃるかと思いますけれども、確認のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上でございます。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。では、本日の会をこれで終わりにしたいと思います</p>